

I. 事業の基礎情報

事業名		高浜カリキュラム推進事業		担当部・グループ名		教育委員会 教育センターグループ		
総合計画（基本計画）体系	個別目標	(4) 学校・家庭・地域が連携を深め、12年間の学びや育ちをつなげます						
	こんなことに取り組みます	・高浜カリキュラムで、高浜の人・もの・ことを活かした教育を実践します。また、活用型のカレンダーを使って「高浜市が育てていきたい子どもの姿」を周知します。 ・高浜カリキュラム教科版で、優れた授業実践案を集約・活用したり、ICTを活用した授業や、高浜版プログラミング教育を実践したりして、主体的・対話的で深い学びを支援します。						
	みんなで目指すまちづくり指標名	地域や社会に関心をもつ子どもの割合						
	総合戦略	策定時の値 2017 59	実績値 2018 -	実績値 2019 -	実績値 2020 -	目標値 2021 70	(単位) %	
<input checked="" type="checkbox"/> 該当する <input type="checkbox"/> 該当しない				予算事業名		1教育委員会運営事業		

II. 目指す姿

このアクションプランによって実現したい目指すべき市の姿	☆高浜カリキュラムを再編し、実践することで、自己有用感を抱く子どもの増加と、学校・家庭・地域の連携を形成する。
-----------------------------	---

III. 課題

目指す姿実現に向けた課題	①子どもの実態や社会の状況に応じた高浜カリキュラムの再構築。 ②高浜の人、もの、ことに関心がある子どもの割合を、もっと向上させる必要がある。
--------------	---

【PLAN】

IV. 目指す姿の実現に向けた4年間の工程表・事業概要

事業年度	2018(平成30年度)	2019(平成31年度)	2020(平成32年度)	2021(平成33年度)	
事業計画	プログラミング教育推進委員会年5回 高浜カリキュラム(高浜版プログラミング教育)全体構想の立案 研修指導員 外国語教育推進委員会年5回 全体構想の立案 研修3回必須 成果振り返り カレンダー配付 次年度カレンダー作成	プログラミングの実践学習移行期間の実施 プログラミング的思考利用教科移行期間の実施 計画確認 高浜カリキュラム(高浜版プログラミング教育—プログラミングの学習指導案—プログラミング的思考をつかった教科)実施 小学1年～6年 高浜カリキュラム(高浜版プログラミング教育—プログラミング的思考をつかった教科)実施 小学1年～中学3年 高浜カリキュラム(高浜版プログラミング教育—プログラミング学習指導案—プログラミング的思考をつかった教科)の指導案の集約・活用 CAN-Doリストをつかった授業実践 小学3年～中学3年 研修 市内統一 CAN-Do リスト活用実践授業指導案等の集約・活用 成果振り返り カレンダー配付 次年度カレンダー作成	高浜カリキュラム(高浜版プログラミング教育—プログラミングの学習指導案—プログラミング的思考をつかった教科)実施 小学1年～6年 高浜カリキュラム(高浜版プログラミング教育—プログラミング的思考をつかった教科)実施 小学1年～中学3年 CAN-Doリストをつかった授業実践本格実施 小学3年～中学3年 成果振り返り カレンダー配付 次年度カレンダー作成	高浜カリキュラム(高浜版プログラミング教育—プログラミングの学習指導案—プログラミング的思考をつかった教科)実施 小学1年～6年 高浜カリキュラム(高浜版プログラミング教育—プログラミング的思考をつかった教科)実施 小学1年～中学3年 CAN-Doリストをつかった授業実践本格実施 小学3年～中学3年 成果振り返り カレンダー配付 次年度カレンダー作成	
	事業費総額(千円)	(当初) 590	(見込) 2,636	(見込) 2,626	(見込) 1,585
	財源内訳	一般財源 590	2,636	2,626	1,585
	特定財源	0	0	0	0
特記事項					

【DO】

Ⅲと対応する課題	V. 上半期の進捗状況 目標達成のために掲げた「課題解決に向けた取り組み」とその進捗状況
①	◆高浜カリキュラム -高浜版プログラミング教育- の全体構想の立案 高浜版プログラミング教育における「めざす子どもの姿」や小学校の各段階における到達目標を作成し、コンピュータ教育ソフトや高浜夢未来塾と連携したロボット体験等のカリキュラムを策定することで、小学校の高浜版プログラミング教育を構想した。
①	◆高浜カリキュラム -CAN-Do リスト活用実践教育- の全体構想の立案 小中連携したCAN-Do リストの作成を進め、平成31年度からの活用を検討する。
①②	◆誇れるまち、高浜を目指す意識や環境の醸成 高浜カリキュラムの実践状況を確認し、さらに充実、実践を進める。
②	◆高浜市が育てていきたい子どもの姿の「地域愛」を高める環境の醸成 「高浜市が育てていきたい子どもの姿」が意識できるように子ども一人一人にカレンダーを配付した。



【CHECK】

Ⅲと対応する課題	VI. 上半期の取り組みから見えてきた課題 目指す姿実現に向け、これまでの取り組みから見えてきた課題
①	平成32年度の小学校におけるプログラミング教育必修化および市内各小学校における高浜版プログラミング教育実施について、ロボットプログラミングキットおよびICT支援員の導入は必要不可欠であること。
①	12年でできる子どもの姿が見えて、どの学校のどの教科書でも使える、小中連携したCAN-Do リストの作成をすること。
①②	新たなカリキュラム (ICT活用・プログラミング教育・CAN-Do リストの活用) の導入のため、集約と周知の方法を検討する。
②	3歳児から中学3年生まで、一人一人の児童生徒に配付したことで、「高浜市が育てていきたい子どもの姿」を広く理解してもらえる、活用型カレンダーとなったか意見を集約する。



【ACTION】

Ⅲと対応する課題	VII. 課題解決を踏まえた今後の具体的なアクション(案) いつ・何を・どのように・どうする	
①	平成30年度下半期	高取小学校5年生と港小学校4年生で高浜版プログラミング教育の先行授業(モデル事業)を行う。高浜版プログラミング学習のカリキュラム導入に向け、具体的な指導案やカリキュラムの作成をする。
	平成31年度	高浜小学校、吉浜小学校、翼小学校の低学年において、先行授業(モデル事業)を実施する。市内全小学校の中学年において、Scratchというソフトを使用した簡単なプログラミングの作成を行う授業を実施する。市内全小学校の高学年において、高浜夢未来塾と連携したロボットプログラミングの授業を実施する。ロボットプログラミングキットおよびICT支援員の導入する。
①	平成30年度下半期	市内全教職員がCAN-Do リストの活用法について理解する。
	平成31年度	各校の外国語教育推進委員が、小中連携したCAN-Do リストのよき、活用の仕方を各校で現職教育する。CAN-Do リストを活用した指導案を作成し、公開するように推進する。
①②	平成30年度下半期	「高浜カリキュラム教科版・高浜版指導演」の集約・活用法を見直す。
	平成31年度	「高浜カリキュラム」の実践を各校で行い、新たな実践を集約・周知する。
②	平成30年度下半期	活用型カレンダーの使い方をPRする方法を検討する。
	平成31年度	27年度から5年目となる「高浜市が育てていきたい子どもの姿」を見直し、活用型カレンダーの配布方法を検討する。
平成31年度 事業費予算	2,636千円	